

# 「そのとき」に備える

これからの季節に増加する大雨や台風などの風水害、さらに地震は、どこでも発生する可能性のある自然災害ですが、気象情報の入手など、早めの対策を行うことで、被害を軽減することができます。

9月1日の「防災の日」は、風水害や地震などの被害を最小限に食い止めるため、日常の備えの大切さを再確認する日です。

平成30年に発生し、北海道に甚大な被害をもたらした胆振東部地震など、災害の記憶を風化させないためにも、身を守るための行動や今できること、日ごろからの備えについて考えることが大切です。

## ■災害時の3つの助け

一人一人が「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持ちましょう。

- ①自助 一人一人が自分の安全を守る
- ②共助 地域や身近にいる隣近所が助け合う
- ③公助 国や町、消防などの行政機関の取り組み



## 確認!! 非常時持出品リスト

※下記以外に必要なものは各自で確認しておきましょう。

- 懐中電灯
- 乾電池
- 救急箱
- 持病の薬
- 携帯ラジオ
- 携帯電話
- 飲料水
- 貴重品（現金、預金通帳、印鑑、保険証、免許証など）
- 缶詰、レトルト食品などの非常食
- タオル
- 衣類

## 備蓄品リスト

- ・レトルト食品、アルファ米 ・インスタントラーメン ・飲料水（1人1日3ℓ）
- ・給水用ポリタンク ・紙皿、紙コップ、箸 ・カセットコンロ、カセットガスボンベ
- ・ランタン ・ラップフィルム ・ティッシュペーパー ・ウエットティッシュ ・簡易トイレ
- ・水のいらないシャンプー ・マスク ・ビニール袋 ・ロープ、工具セット ・長靴
- ・ほうき、ちりとり など

## 9月1日「防災の日」 防災の大切さを再確認しましょう

内閣府から「避難情報に関するガイドライン」が令和3年5月に公表され、その方針に沿って町や気象庁などから発表される防災情報を用いて住民の皆さんがとるべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、5段階の警戒レベルを明記しています。

警戒レベル	住民がとるべき行動	町からの情報	目安となる気象庁などの情報
5	<b>命の危険 ただちに安全確保</b> すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所より安全な場所へ直ちに移動	緊急安全確保	大雨特別警報
4	<b>危険な場所から全員避難</b> 過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく	避難指示	土砂災害警戒情報
3	<b>危険な場所から高齢者や障害のある方などは避難</b> 高齢者以外の人も必要に応じ、避難の準備をしたり、自主的に避難	高齢者等避難	大雨警報 洪水警報
2	<b>自らの避難行動を確認</b> ハザードマップなどにより、自宅などの災害リスクと避難情報の把握手段を再確認		大雨注意報 洪水注意報
1	<b>災害への心構えを高める</b>		早期注意情報

ここまでに必ず避難！